

# 那須塩原・リンツ

## 鉄鋼の町からアートの町へ



動物のパレード©Stadt Linz Dworschak

リンツ市は、ずっと鉄鋼の街でした。市は生活の質をより良くしましたが、いつまでも「工業の町」のイメージが残っていました。

そんな中、2009年に、リンツ市は「欧州文化首都」になりました。リンツ市には、困難な歴史があります。アドルフ・ヒトラーは当時リンツ市を文化のまちにすることを提案しました。その歴史を知ったうえで、欧州文化首都になったことをきっかけに、都市として新たに生まれ変わり、表現することもポイントでした。

2009年に、幅広いアートと文化で盛り上がり、新しい文化施設を開館しました。その一つは、「アトリエ・ザルツアムト」です。外国のアーティストがこのアトリエに滞在し、アーティスト・イン・

レジデンスのプログラムを活用し、地域のアーティストと一緒に展覧会などを実施します。また、コンピュータなどの新しいテクノロジーを使ったアートを体験できるアルス・エレクトロニカセンターがリニューアルされました。2009年に行われた文化のイベントでは、市民も参加しました。そこで「ノアの箱舟」がテーマになったパレードが行われました。市民が動物のマリオネットを動かして、動物のパレードを行いました。アートのまちづくりのおかげで段々と故郷リンツ市にプライドを持つようになりました。

今年2019年は、リンツ市が「欧州文化都市」になって10周年です。文化と美術で溢れたまちになりました。那須塩原市もアートのまちづくりに力を入れているので、お互いにアイデアを交換し合えば、さらに色々な交流ができると思います！



アルス・エレクトロニカ・センター

## リンツ市情報：リンツ・ジャパン・デイ



リンツ市で那須塩原市のPR

「名前を日本語で」というコーナーで来場者に、名前をカタカナでどのように書くかを教えて、交流する予定です。きっとこのイベントをとおして、さらに多くのリンツの方々が那須塩原市を好きになると思います！

2019年の日本・オーストリア友好150周年をきっかけに、日本でも、オーストリアでも、たくさんの文化交流のイベントが行われます。リンツ市では、6月22日に、日本の伝統文化などを紹介するイベント「リンツ・ジャパン・デイ 2019」が開催されます。会場はリンツの町の中心近隣にある、パレー・カウフメンニシャー・フェラインです。

そのイベントで、那須塩原市をリンツ市の皆さんに紹介するために、PRブースを出し、那須塩原市の案内チラシをドイツ語と英語で配布します。「みるひいちゃん」も紹介したいと思います。

## 那須塩原・リンツ

### あの人：曾我晶子（そが あきこ）



#### 「またとないチャンス」

#### 日本とオーストリアの間でどのような交流を行っていますか。

日本の方々に、オーストリアの文化をよりよく知っていただくというのが私の役目です。具体的には、日本にある美術館やコンサート主催者などの文化機関との協力関係を構築したり、日本で開催されるオーストリア関連イベントの広報、来日するアーティストの助成などを行っています。日本では、やはりオーストリアといえばクラシックを中心とした音楽への需要が大きいため、オーストリアの若手の演奏家のコンサートを、オーストリアに友好都市のある地方自治体との共催で企画したりしています。また、オーストリアは欧州連合(EU)に加盟しているため、日本で開催されるEUの文化イベントにも積極的に参加しています。EUフィルムフェスティバルに出品するオーストリア映画を選んだり、EU文芸フェスティバルに参加するオーストリアの作家を選んだりするのも私たちの仕事です。日本とオーストリアの間では、大学間の交流も盛んで、オーストリアに協定校のある日本の大学も少なくありません。また、日本とオーストリアの協定による奨学金制度もあり、日本からオーストリアに4名程度、そしてオーストリアから日本にも4名程度、留学しています。

#### プロフィール

名字：曾我 そが

名前：晶子 あきこ

出身：東京都

住所：東京都

職業：オーストリア大使館勤務、オーストリア文化フォーラム

#### 今までの交流の中で、特に思い出に残っていることは何ですか。

今までに何度か、オーストリアの音楽家と一緒に小学校を訪問しました。子どもたちが熱心に音楽を聞いたり、積極的に質問をしたりしてくれるのは、いつもうれしいです。給食を一緒にいただいたり、授業を見学させていただいたこともあります。音楽家たちも、日本の学校はオーストリアとはまったく様子が違うので興味津々です。習字の授業には特に感心していました。サインをもらおうと子どもたちが行列を作ったこともありました。昨年、上司と一緒に花巻市にご招待いただいた際には、地元の中学生在がドイツ語でベートーヴェンの第九交響曲の「歓喜の歌」を披露してくれました。ドイツ語の発音がとても上手でびっくりしました！

#### これからの交流のアイデアや希望は何ですか。

オーストリアは日本の方にはとても人気のある国で、文化、音楽の国としての認知度も高いのですが、それでも、オーストリアの文化のごく一部しか知られていないと感じます。私も、この仕事に就いて初めて、オーストリアの文化の多様性を知りました。音楽だけをとっても、クラシックだけではなく、ジャズやテクノ、ポップス、ワールドミュージックなど、あらゆるジャンルで、いろんな国籍のアーティストがオーストリアを拠点に大活躍しています。造形芸術でも、世界的に注目を集めているオーストリアのアーティストは多く、日本国内の芸術祭にもたくさん招待されています。映像作品も、ユニークなものがどんどん制作されています。まだまだ日本では知られていないオーストリアの文化を、少しでも多くご紹介し

## 那須塩原・リンツ

ていきたいです。

さらに、もっと東京以外の地域でも、オーストリア関連イベントができたらと思っています。今年の日本オーストリア友好150周年や、来年のオリンピック・パラリンピック東京大会をきっかけに、オーストリアの姉妹都市との交流を深めたいという地方自治体が多く、またとないチャンスだと思っています。

那須塩原のみなさまにも、オーストリアのいろいろな面をぜひぜひ知っていただきたいです。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

### 生き生きとした姉妹都市関係

#### 2019年2月2日：「オーストリアをもっと身近に」

外務省大臣官房国内広報室の石原丈嗣氏が那須野が原博物館でオーストリアについて講演しました。主催は国際交流協会のリンツプロジェクト委員会で、来場者は約70人もいました。石原氏が在オーストリア日本大使館に務めていた時の経験やオーストリアの音楽・食事などについて楽しく語りました。講演が終わってから、グループに分かれて、オーストリアの文化について意見交換を行いました。オーストリア式の握手も練習しました。



#### 行ってみましょう！ ☆ オーストリアの文化に関するイベント

##### 4月24日～8月5日 展覧会：「ウィーン・モダン」クリムト、シーレ世紀末への道

東京・六本木 国立新美術館、観覧料：一般 ¥1,600（学生・前売・団体割引あり）

詳しい情報はHP <https://artexhibition.jp/wienmodern2019/> をご覧ください。

##### 4月17日・6月14日 東那須野公民館女性講座：フロリンとオーストリアときめき講座

4月は、イースターエッグの飾りを作ります。6月は、ウィーンのお菓子作りとオーストリアの暮らしを学びます。詳しい情報やお問い合わせは東那須野公民館まで

### 文化コーナー：イースターの起源とシンボル



キリスト教（特にカトリック教）の伝統が強いオーストリアでは、多くの祝祭日がキリスト教に関係があります。イースターは、十字架の上で亡くなったイエスが復活したことを祝します。飾りとしては、復活のシンボルである卵以外にも、子羊やウサギなど、春のシンボルも良く見られます。それは、キリスト教ができる前の大昔から、春をお祝いする祭りがあったかららしいです。キリスト教が入ってきた時に、春のシンボルがイースターに混ざってきました。イースターは、一週間の、何日かにそれぞれの伝統があります。例えば、イースターの日曜日の一週間前に、「枝の主日」があります。その日にイエスがエルサレムに来て、人々がヤシの葉を道に散らして歓迎しました。それをテーマにした式があります。ただオーストリアではヤシの葉が無いので、その代わりにネコヤナギの枝と他の植物を束にして、教会で牧師に祝祷を捧げてもらってから家で飾ります。

## 那須塩原・リンツ

### 作ってみましょう！ ☆ 聖木曜日の伝統料理

ドイツ語で「緑の木曜日」と呼ばれる、イースターの日曜日の前の木曜日には、緑色のものを食べる習慣があります。シンプルで人気の料理はほうれん草、卵とジャガイモを使った料理です。ジャガイモを茹でて、皮をむいて適当なサイズに切ります。フライパンで塩胡椒とオイルで炒めます。

玉ねぎを切って炒めます。ほうれん草と出汁を入れます。細く切ったにんにくとナツメグを少々入れて、ふたを閉めて約10分蒸らします。小さく切ったトマトと生クリーム少々を混ぜます。

目玉焼きを焼いて、ジャガイモとほうれん草と一緒に皿に盛り付けたら完成です。



答えは下



**Q** イースターに関連していないものはどれですか。

**A:** ウサギ

**B:** ボタン

**C:** ネコヤナギ

**D:** 卵

## ドイツ語コーナー：「花を通じて言う」



ドイツ語では、「durch die Blume sagen」（ドゥルヒ・ディー・ブルーメ・ザーゲン）と言う表現があります。直訳は、「花を通じて言う」となります。日本でも、花言葉があると思います。ヨーロッパの中世期に、白百合は「純情」やバラは「愛」などと、花に意味を持たせるようになりました。18世紀にトルコから、「セラム」という、お花を通じて愛する人にメッセージを送る習慣が入ってきました。お花の種類、色、花束の中の位置に重要な意味がありました。貴族の娘たちなどが好きな人と直接話することが出来なかった社会で、花を通じてコミュニケーションをとっていました。現在の「花を通じて言う」の意味は、直接ではなく、遠回しに言うことです。特に批判や否定的な内容を優しく、綺麗な言葉を使って言うことです。

発行：那須塩原市役所企画部秘書課都市交流係

（担当：フロレンティーネ・ロンニガー）

事務局：〒325-8501 栃木県那須塩原市共墾社108-2

TEL: 0287-62-7324 FAX: 0287-63-1240

Eメール：f.ronniger@city.nasushiobara.lg.jp

FB: <https://www.facebook.com/nasushiobara.city.hisho/>

[www.city.nasushiobara.lg.jp/03/3740.html](http://www.city.nasushiobara.lg.jp/03/3740.html)

（バックナンバー・ドイツ語・英語編）



クイズの答え：B  
ボタンは、イースター  
に関連していません。